

「音楽は免疫を上げる」

2020年11月30日

小河俊紀



[〈新型コロナ 芸術鑑賞、新たな取り組み 山響、定期演奏会ネット配信 山形、映画を車の中から /山形 - 毎日新聞 \(mainichi.jp\)〉](#)

新型コロナ禍と世界的な異常気象

今年も、東日本ヤマハ会ネットサロン2021に投稿のお誘いをいただき、光栄です。

「ところで、何年ぶりだっけ？」と調べたら、何と昨年のネットサロン2020に、「未来は、過去を変える」と題し、投稿していました。

「いよいよ私もボケてきたか」とやや落胆する一方、「この一年間を

ひどく長く感じたのは、私だけではないかも」との感慨もします。

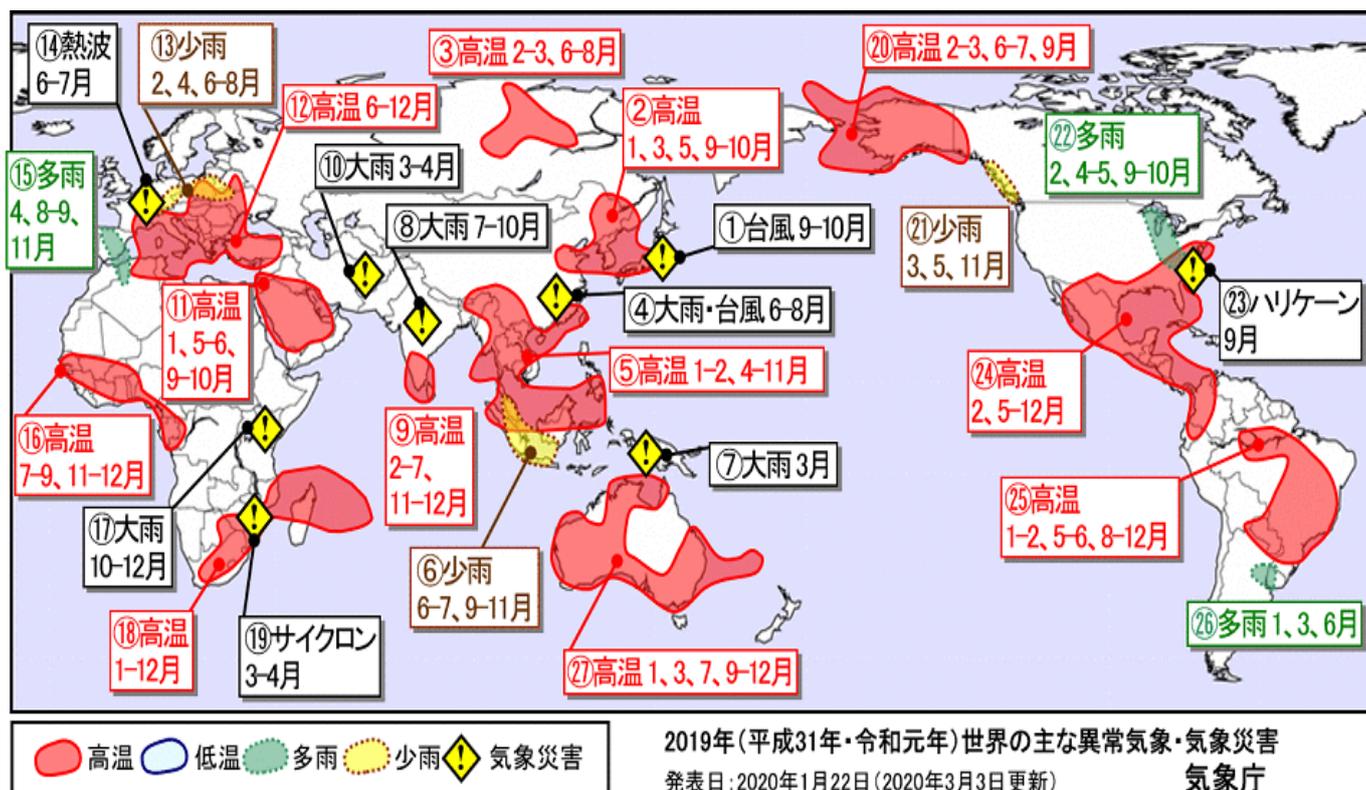
おそらく、一年を長く感じた最大の原因は、新型コロナ禍です。昨年未まで、このような災禍が短期間で全世界を襲うとは、誰が予想できたでしょうか。感染者は増える一方で、亡くなられた方も増えています。目に見えない敵だけに、今やマスクは常備品で、外出は控えるために、仕事はテレワーク、そして無観客の演奏会・野球・相撲などなど、従来の常識ではありえない日常が急激に起こりました。

奇しくも、昨年2月に上梓した「キャッシュレス社会と通貨の未来」(民事法研究会)で、**地球温暖化がもたらす異常気象と人類の危機**を、未来小説として私は描きました。

実際、発刊して間もなく、昨夏は世界中がひどい異常気象でした。

6月には、日本より緯度が高くて涼しいはずのヨーロッパ全土が熱波に襲われ、平年気温を10℃上回る40℃台の猛暑となりました。フランスでは何と一時45℃を超えました。





[気象庁 | 世界の年ごとの異常気象 \(jma.go.jp\)](http://jma.go.jp)

日本では、9月に観測史上最大級の大型台風15号が房総半島に上陸し、甚大な被害が出ました。あれから1年以上たった先日、数年ぶりに南房総を家族で旅行したのですが、館山市付近を通過した際、青色のビニールシートが生々しくあちこちの屋根にかけてあり、傷跡が未だに消えていない現実を知りました。同時に、私の近未来予測がこれほど早く的中した事に、背筋が凍る思いでした。

前記の未来小説は単なる予測ではなく、「日本が石油やガスなど化石燃料の段階的削減を行い、世界に先駆けて室温超伝導技術を実用

化した結果、2050年に温室効果ガスの発生がゼロになり、地球の破壊は避けられた」旨、私は描きました (P.8~9)。これは、夢想ではなく提言でした。

ちなみに、低温（マイナス 138°C）の超伝導は MRI などでも既に実用化されており、2027年にはリニアモーターカー搭載が見込まれています。もし、室温で駆動する超伝導技術が開発・実用化されると、太陽光発電と同様半永久的なクリーンエネルギーとなり、化石燃料は不要になります。

執筆当時（2018年秋）の政府方針は、「2050年までに80%削減」というものでした。ところが、つい先日11月22日、主要20カ国・地域首脳会議（G20サミット）で、菅総理大臣は2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする目標を公約し、各国首脳に衝撃を与えました。私も、驚きました。

[菅首相が「国際公約」 温室ガスを2050年に実質ゼロ：朝日新聞デジタル \(asahi.com\)](#)

パンデミックと温室効果ガスの関係

新型コロナのパンデミックは、当初予想をはるかに超えました。

発生の科学的な原因究明は済んでいませんが、地球温暖化による生

態系の破壊が関係していることは、間違いないでしょう。

ここにきて、感染の第三波が世界を襲い、いつ収束するか見通しがつきませんが、10年くらい経った未来に、「あれは、大変な年だったなあ。あれ以来、世の中が良くも悪くもいろいろと変化した」と振り返る時が必ずくるはずです。

良い例では、産業と文化の東京集中は解消されるでしょう。また、かたくなに現金主義だった日本で、皮肉にも衛生面で現金決済が嫌われ、清潔なキャッシュレス決済が急ピッチで拡大しています。現金が消滅する日は、それほど遠い未来ではないのかもしれませんが。それ以外に、伝統的な社会慣習や構造の隅々まで大きく変わっていく予感がします。

ピンチをチャンスに変えるために、菅総理も覚悟を決められたのでしょうか。

音楽の効用 = 免疫力アップ

ひたすらワクチンの登場が待ち遠しい毎日ですが、自分で手軽に免疫力を上げる方法として、音楽がかなり有効なようです。

ちなみに、音楽業界専門誌「ミュージックトレード」2020年4月号に掲載された記事の一部を紹介します。

音楽は免疫力を高める



埼玉医科大学短期大学名誉教授
理学博士

和合治久氏

副交感神経を刺激する音楽を活用すれば、免疫力を高

めることができるのです。

副交感神経に作用する音の特性として、約4,000ヘル

ツという高周波音や、川のせせらぎ音のようなゆら

ぎ、そして和音が豊富なために生まれる倍音がありま

す。副交感神経刺激の音楽に聴き入るだけで、唾液がよく分泌される、血管が

拡張して体温が上昇する、あるいは血圧・心拍がすぐに安定するという反応を

実感します。またリンパ球やNK細胞という免疫細胞が活性化します。

種々の音楽の中には交感神経にブレーキをかける副交感神経を刺激する音楽が

あるので、それを効果的に活用すると、免疫学的に感染防御力が高まり、スト

レスで引き起こされる病気を予防することができるのです」

(京浜楽器ホームページから引用)

[ストレスやウイルスに負けるな！「音楽の力」で免疫力を高めよう！！ | 京浜楽器 \(keihingakki.co.jp\)](http://keihingakki.co.jp)

「エール」の力

NHKの朝の連続テレビ小説「エール」は、11月27日放送をもって終了しました。毎日のように登場する懐かしい古関メロディに私はワクワクしました。とりわけ、高校野球「栄冠は君に輝く」は、胸が熱くなりました。



不覚にも、1964年東京オリンピック開会式で演奏された行進曲「オリンピックマーチ」が、古関裕而作曲とは知りませんでした。歴史に残る素晴らしい名曲ですね。



当時、私は高校三年生で受験勉強真っ最中でしたが、日本晴れの空に響き渡るファンファーレとこのマーチを聞いただけで、大きな

エネルギーをもらったのを、つい昨日のようにハッキリ覚えています。

「エール」という朝番組は、新型コロナで沈む今の日本人の免疫力をタイムリーに高めたのではないのでしょうか。

ヤマハの社会的価値

私は、金融系（キャッシュレス）の仕事で半世紀過ごしてきました。42~55 歳までの 14 年間はヤマハ（楽器営業本部）に在籍させていただきました。

入社当初、環境に慣れず少し辛いこともありましたが、以降の大半は心和む懐かしい思い出ばかりです。今でも OB 会の皆様と温かい交流をさせていただくと、「本当に良い会社に勤めていたんだなあ」とシミジミ思います。

その理由は、おそらく創業者山葉寅楠氏以降に積み上げられた温かい企業風土（音楽産業の遺伝子）なのでしょう。特に、**戦後日本が貧しかった時代から、音楽体験の機会を様々に提供しているヤマハの存在は、社会の宝**です。

現在、新型コロナ禍で苦勞されている現役の社員、特約店様、そしてお客様も多いと拝察します。

僭越ながら、本稿をお借りしヤマハ関係者の皆様、そして OB 会の皆様のご発展とご健勝を祈念して、心からエールをお贈りします！



フレーフレー ヤマハ !!

